



ボタンクサギ 花言葉：輝く美しさ、運命、清楚

四万十川ニュース Vol.121

中村河川国道事務所 平成30年7月17日

第2回 幡多地域生態系ネットワークシンポジウム



平成30年6月23日(土)、生態系ネットワークの形成を目指したシンポジウムを中村地区建設協同会館で開催しました。

今回で2回目となるシンポジウムでは「協働のかたちづくり」をテーマに、高知大学地域連携推進センターの梶菜樹氏による基調講演、貴重な生態系を保全し幡多の魅力と活力を高める活動を行っている方々の地域での取り組み紹介、「自然と共生した地域づくりのための協働のかたちを考える」と題したパネルディスカッションを行い、幡多地域を中心に官・民・学から合計80名の皆様に参加いただきました。

パネルディスカッションでは、取り組みによって得られた思わぬ効果や、協働を呼びかける上ではまず相手に何をしたいのか自分たちで整理しなければいけないといった意見が出されました。

その上で、幡多地域の恵まれた自然とそこで活動する方々との協働を河川を軸とした生態系ネットワークでつないでいくことを確認しました。

夏の「ツルの自然体験学習会」



↑室内学習

田植え→



平成30年6月28日(木)に、次世代のツルの守り手の育成を目指した学習会を開催しました。この学習会は「四万十つるの里づくりの会」と中村河川国道事務所の主催で平成18年度から毎年実施しており、今年も東中筋小学校と同中学校の子どもたち33名が参加しました。

東中筋中学校での室内学習では、「四万十つるの里づくりの会」が中筋川流域で越冬地整備が必要な理由や同会の活動内容、ツル類の飛来状況などを紹介しました。また、中村河川国道事務所は「四万十川自然再生事業(ツルの里づくり事業)」の目的や内容について説明しました。

その後、子どもたちは中筋川に整備した湿地を訪れ、昨年よりも多くのツルが飛来することを願って田植えを行いました。今年の冬、子どもたちが植えてくれた稲を食べるツルの姿が見られることを期待したいと思います。

平成30年7月豪雨による出水の状況

台風第7号や梅雨前線の影響によって、平成30年6月28日以降、西日本を中心に広い範囲で記録的な大雨となり、各地で甚大な被害が発生しました。

四万十川においても、7月7日に具同観測所で無堤部の避難判断水位7.70mを上回る7.82mを記録し、7月8日には深夜から降り続いた雨により大雨特別警報が出され、四万十市全域に避難指示(緊急)も出されました。

渡川水系 四万十川 右岸 9.5k



高知県四万十市具同

西日本各地で大きな被害が発生する中、幸いにも中村河川国道事務所が管理する河川の氾濫はありませんでしたが、各地の被害を目の当たりにし、自然災害の恐ろしさを改めて感じました。

地域の皆さんも日頃から避難所の確認や災害などへの備えを行うと共に、災害時には自治体から出される避難情報に従い命を守る行動を心がけてください。

四万十川に関するお気付きの点や、お問い合わせは
中村河川国道事務所 計画課までお願いします。

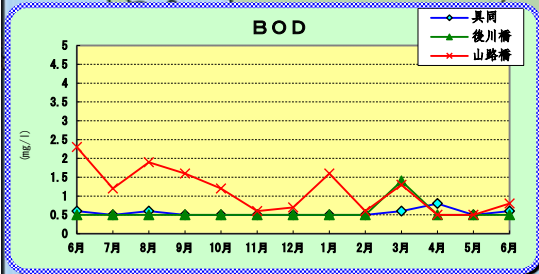
TEL0880-34-7301

「四万十川ニュース」は、中村河川国道事務所HPにも掲載しています。

<http://www.skr.mlit.go.jp/nakamura/index.html>

7月7日 14:30の四万十川の様子(水位7.82m)

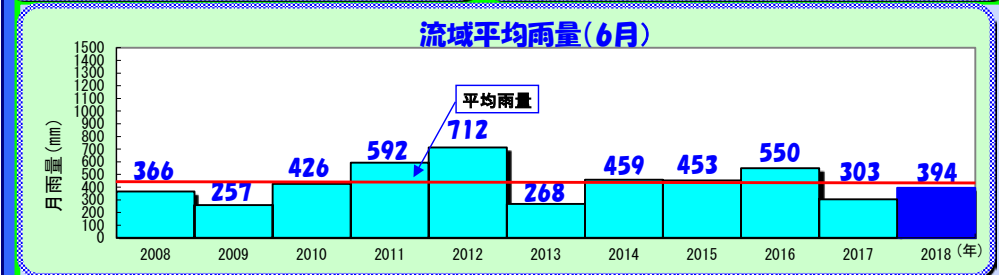
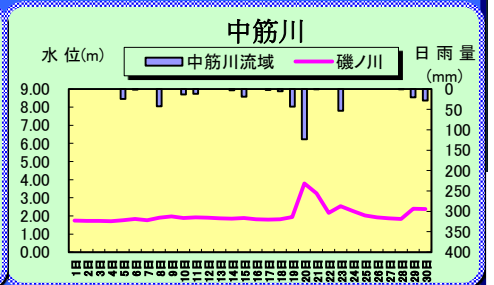
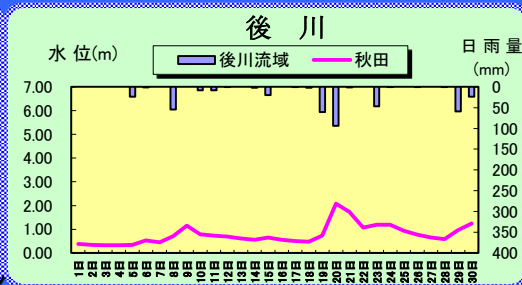
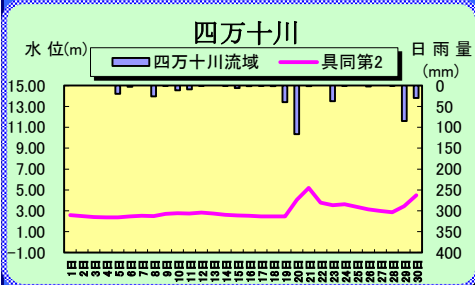
6月の四万十川の様子



BOD基準値

四万十川	1.0mg/l以下
後川	2.0mg/l以下
中筋川	3.0mg/l以下

雨量・水位データ



6月の四万十川流域平均雨量394mmは平年の0.9程度の雨量です。
 なお、過去10年間の平均雨量は439mmです。
 ※四万十川流域平均雨量について、四万十川流域の雨量観測所(18箇所)が流域に占める支配面積の比率により算出した雨量です。
 ※測定値は全て速報値です。

四万十川の水位・雨量について

- ・水位・雨量情報電話サービス (0880-34-7321:3回線)
- ・PCサイト「川の防災情報」 <http://www.river.go.jp/>
- ・携帯サイト「川の防災情報」 <http://i.river.go.jp>

